

みんなで考えよう！
木のまちものづくり

NEWS LETTER

第5号 2006/05/31

発行:ものづくり実行委員会
発行責任者:今井康人
事務局:〒519-3405三重県北牟婁郡紀北町
海山区船津2655 森林組合おわせ内
tel (0597)35-0877 fax (0597)35-0890

ものづくり実行委員会ニュースレター第5号をお届けいたします。

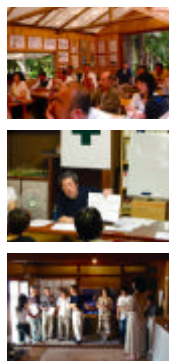
今回は、平成十七年度の事業を中心に纏めてみました。「木のものづくりから木のまちづくりへ」をテーマに取り組む当委員会の活動が、多くの方々に支えられながら3年目を迎えようとしています。



おわせひのき
フェスタ・クレアーレ
海山町がギャラリーになった2週間
【4・5・6面】

もくじ Contents

Topics	第1回ものづくり専門分科会勉強会	2
Topics	第2回ものづくり専門分科会勉強会	3
Topics	おわせひのき フェスタ・クレアーレ	4~6
Topics	第3回ものづくり専門分科会勉強会	7
Report	第4回ものづくり実行委員会定例会	8
News	新規会員のお知らせ	8
News	平成十八年度の事業について	8



Report 第4回ものづくり実行委員会定例会の開催

平成十八年二月二十五日に、紀北町民センター1F小会議室にて、第4回ものづくり実行委員会定例会が開催されました。昨年3月に行った第3回以来の実行委員会定例会となりました。本年の総括と、来年の実施計画などを検討しました。当日の議題は以下の通りです。

- ・平成十七年 第1回ものづくり勉強会事業報告及び決算
- ・平成十七年 第2回ものづくり勉強会事業報告及び決算
- ・平成十七年 第3回ものづくり勉強会事業報告及び決算
- ・おわせひのきフェスタ・クレアーレ事業報告及び決算
- ・平成十八年 予算案
- ・平成十八年 活動方針案
- ・新規会員について
- ・平成十八年 体制



News 新規会員のお知らせ

第5回ものづくり実行委員会定例会で、以下の方々が新規会員として入会して頂きました。

- ・脇 俊明 (紀北町役場企画振興課)
- ・奥川賀夫 (紀北町役場企画振興課)
- ・速水紫乃 (速水林業)
- ・廣下光樹 (森林組合おわせ職員)
- ・黒田 恭 (森林組合おわせ職員)
- ・野澤芳敏 (けいすけYA)
- ・名張陽子 (ビシヨップ)
- ・所澤英満 (ビシヨップ)

News 平成十八年度の事業について

第5回ものづくり実行委員会定例会で、平成十八年度事業、体制などが決定致しました。

【事業計画】

大きな事業として、以下の事業を計画しております。

- ・ものづくりによる地域向上のため専門分科会を更に特化し、完成の高いものづくり勉強会の開催。
- ・尾鷲ひのきを使ったワークショップ。

|お|問|い|合|わ|せ|

皆様のご意見・ご感想や、ものづくり実行委員会へのお問い合わせ、ものづくり専門分科会への入会など、ドシドシお寄せ下さい。

ものづくり実行委員会

事務局:〒519-3405三重県北牟婁郡紀北町
海山区船津2655 森林組合おわせ内
tel (0597)35-0877 fax (0597)35-0890
E-mail mono@owase.or.jp



緑の募金

本誌は「緑と水の森林基金」助成事業の協力のもと、発行致しております。



Topics

第3回
ものづくり専門分科会勉強会

開催日 平成十七年九月二十五日

参加者数 20名

講師 東京藝術大学 木工芸 田中一幸教授

フェスティバルもいよいよ最終日。渡利の今井邸をお借りした空間「ギャラリーWatarri」には期間中実に601人もの人々が見学に訪れ、勉強会の成果17点を鑑賞して下さいました。

作品の作り手も、作品の大きさ・技術も様々でしたが、来場者は皆肩の凝らない雰囲気での展示を楽しんでくれたのではないかと思います。講評会は最後に締めくくられる形で講



師に田中先生を迎え、ひとつひとつの作品を前に行われました。「これは良いのではないか」というものが意外と辛口の評価だったたり、「そういう視点もあったのか」と改めて新鮮なイメージで見ることができたりと、それぞれ作者も新しい発見があったのではないのでしょうか。特にヒノキと異素材を組み合わせた魅力あふれた作品や、近い将来商品開発に繋がりそうなアイデアなど意欲的で今後の展開の可能性を感じさせるものがあつたというコメントにはスタッフ一同大変勇気付けられました。

これをステップに十八年間は更に専門に特化したプログラムを組んでいく予定です。作品の一部は今年三月に竣工した尾鷲ヒノキの展示施設（地元のヒノキを贅沢に使った施設です）に設置されていますので、ご



興味のある方は是非こちらへもお出かけください。

《尾鷲ヒノキの展示施設》

紀北町海山区相賀1992-6

※見学希望の方は海山木材協同組合までご連絡下さい。

☎0597(32)0167



Topics

第1回
ものづくり専門分科会勉強会

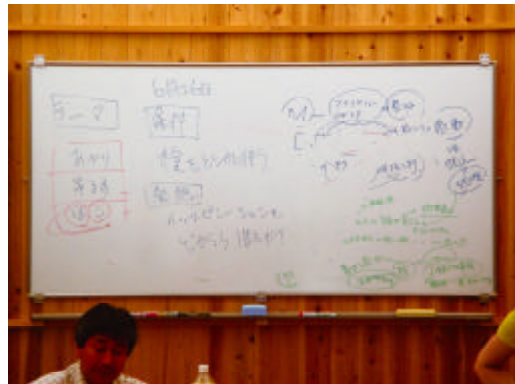
開催日 平成十七年六月五日

参加者数 48名

講師 東京藝術大学 漆芸科 三田村有純教授・青木助手 鑄造科 橋本明夫教授

「尾鷲ヒノキを生かしたい」
「ヒノキを生かしたデザインを
してもらいたい」
「デザインの重要性を理解して
もらいたい」

こんな時系列からスタートしたものの
づくり勉強会も二年目に突入。その
振り返り総集編をお届けします。



より多くの人にもものづくりを理解してもらおうと、対象を広く行ってきた勉強会も先生の話を聞いたり見たりするだけでは発展しないだろうということで、実際に手を動かし、かたちにすることもひとつ高みを目標そうと専門分科会を発足させ、スタートしたのがこの第1回目です。

この日は快晴で、会場になった大田賀の会議室も皆汗を掻きながらの聴講となりました。実際にものを制作するにあたり、先生方から出された課題は「あかり」「吊るす」「箱」。課題から浮かぶイメージ、素材との関連、具体化までの流れをまずしっかりと認識することが狙いです。このテーマを複合的に組み合わせてもよし、ひとつに絞ってもよしということとその課題説明と設定の理由を解説していただきました。この方式は通常の美術大学における授業と基本的に同じ流れですが、既に木材加工を工業にされている方、趣味の作業としてされている方、加工そのものにもあまり経験がない方と意識の方向性は様々だったので、芸大の先生方の話の運び方にも腐心の跡が伺えました。

実際の作業はまずペーパー上に自分のイ



メージするかたちの原案、その動機などを明らかにしていくことですが、参加者の反応はまちまち。次回の勉強会までに各自が煮詰めたものをスタッフで回収し、芸大に送って次回の作業に備えるという段取りでしたが、委員会としては完成までの不安よりは、まずスタートが切れた！ということでも印象深い週末となりました。

今回は九月開催のフェスタ・クレアールに向けた作品準備の一端も兼ねて東京芸大染織科の学生数名も現地に足を踏み入れており、前日に展示候補地として、紀伊長島町（旧）エリア・公園や港の視察と夜は地元の方さんとの交流会が行われました。（やはしやきすぎて翌日がつらかった参加者も何人か：）このエリアの自然の奥深さ・美しさ・尾鷲のイタタキ市見学などの漁師町



の活気、地元の皆さんのホスピタリティに触れ、学生たちはとても感激した様子でした。帰りの南紀号の中で皆、展示や候補地、素材についてあれこれと話を弾ませたり、撮影した場所をビデオで確認したりと余念がありませんでした。



第2回目は仕上げたエスキース（紙上に自分のイメージを描いて具体化する）をもとに先生よりアドバイスを頂く、加工前の総仕上げになります。今回は尾鷲の森林組合事務所をお借りして開催されました。毎回まちなかの色々な場所を知る狙いも含め、これだと思う場所での開催を提案するので、実際の準備は掃除や机のセ

開催日 平成十七年七月二十四日
参加者数 22名
講師 東京藝術大学 木工芸 田中一幸教授・賀澤助手

Topics 第2回ものづくり専門分科会 勉強会

ツティングなど影の現地スタッフにはいつも多大な労力を提供してもらっています。（いつも掃除をしてくれるスタッフのみなさん、感謝！）さて、実際の紙に起こすという作業ですが、慣れないなかでも予想以上の枚数が提出され、その作品案をもとに田中先生・賀澤助手より約1時間半ほどのアドバイスをが行われました。様々なアイデアを紙に描き出してみるのは重要な作業で、これを繰り返していくことで自分のイメージがより鮮明になり、作業工程のイメージも組み立てられていきます。

この後、フェスティバルまでの間に賀澤助手に一回途中経過をチェックいただき、いよいよフェスティバルの展示に望むことになりました。

🌿 ギャラリー Watarri



フェスタの開催していた2週間にわたり、渡利地区の古民家を使って、ものづくり専門分科会の会員の作品を展示した「ギャラリー Watarri」。

参加した会員はこの作品展示を目標に、東京藝術大学の先生方のご指導のもと、数回の勉強会を行い、灯（あかり）・吊（つるす）・箱（はこ）の3つのテーマに沿ったヒノキを使った作品を制作しました。

どの作品も、独創的で、バラエティーに富んだ展示となり、延べ601名におよぶ来場していただいた方々も、興味深く観賞していました。

また、三重県内で活動されている工芸家の方々に「三重の匠展」として作品を共同展示していただき、地域の方々のものづくりの意欲の向上に一役買っていたいただきました。

🌿 植樹・伐採 ワークショップ

開催初日、九月十一日のオープニングセレモニーの後、「植樹・伐採」・「ワークショップ」と2つの体験型イベントを行いました。

「植樹・伐採」では、地元の子供達30名が参加して、ヒノキの苗の植樹体験や、伐採シーンの見学などを行いました。子供達は楽しみながら、森林の循環やヒノキの資源としての大切さを学べた事と思います。



「ワークショップ」では、地元高校生を中心の20名が、3グループに分かれて、ヒノキの丸棒を使い、移動式の屋台の作製を行いました。各グループとも意見を出し合いながら、短い時間の中で工夫をこらして、作ったオリジナルの屋台。参加者は地元の資源を使って、モノをつくる楽しさを体験できたと思います。

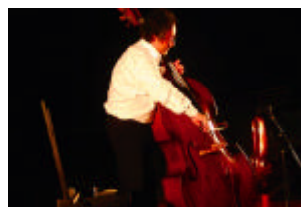
どちらのイベントも参加した皆さんの真剣な眼差しが印象的でした。

🌿 野外イベント

九月十七日には、東京藝術大学生の野外作品が展示してある、熊野灘臨海公園園大地区で、野外ライブとトークショーを行いました。

森林に関する積極的な活動をされているタレントの芳村真理さんと東京藝術大学の橋本教授、コーディネーターの速水亨さんの3人で進められたトークショー。「おわせひのきってなあに？」というテーマで、地域の重要な資源である森林の大切さ、その資源を活用したもののづくりの可能性、アートと町づくりなど、今後のこの地域の発展を考える上で、大変意義のある、興味深いお話をいただきました。

また、実際に設けた特設ステージでは、世界的なベース奏者、藤原清登さんの野外ライブが行われ、訪れた人々に安らぎを与えてくれました。





総括

Topics おわせひのき フェスタ・クレアーレ開催

《No Wood No Life》

価値観の多様化や生活様式の変遷に伴い、私達の日々の生活の現場において、木に触れ、木を意識する機会が少なくなりつつあるように思われます。「柱の傷は一昨年の」の歌詞にもあるように、木は人々の日常の生活を支えながら、家庭や地域でのイベントで大きな役割を果たしてきました。そして私達の地域は、江戸時代より日本を代表する林業地帯であり、そこで産出される尾鷲ヒノキの素晴らしさは、地域が誇りとしてきたものです。

「本当の豊かさとは？」とか「人生における幸福感とは？」の問いに対する明確な答えを見いだす事は困難ですが、木を身近に感じる事の出来る生活は、これらの問題を解く道標の一つであると私は信じます。

事業に参加された方々が「尾鷲ヒノキってステキだな」と感じていただければ、企画・運営した私は「ヤッター!!」なのです。



《No Art No Life》

おわせひのきフェスタ・クレアーレは、2週間にわたる様々な展示とイベントを組み合わせた事業です。又、尾鷲ヒノキに対する既存の取り組み方とは異なる方向性を有する実験的事业でもあります。

事業を通して、各現場では「より完成度の高いものを！より快適であるものを！より美しいものを！」という努力と試行が行われました。そして、その素材は私達の誇る尾鷲ヒノキです。勉強会の席で田中教授の言われた「芸術とは生きる力である」の意味が、少し解ったように思います。

多くの方々のご理解とご支援に支えられた事業でした。あらためて、ご高配を賜りました関係諸機関及び諸氏に深くお礼申し上げますとともに、ものづくり実行委員会に更なるご期待を添えられますようお願い申し上げます。

小さな風は起こせたものと、自負しております。

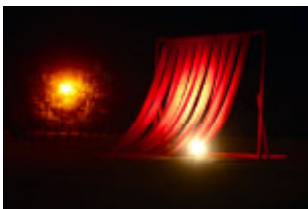


熊野灘臨海公園大臼地区の展示

九月十一日のオープニングセレモニーの会場でもあった、熊野灘臨海公園大臼地区では、東京藝術大学の学生が作った作品が野外展示されていました。

「尾鷲ヒノキ」を使った、スケールの大きな野外の作品は、周りの風景に溶け込みながらも、十分に存在感のあるものでした。学生の洗練された作品は、地域の「ものづくり」に関わる方の刺激になると共に、地域の方々に「尾鷲ヒノキ」に興味をもってもらうよいきっかけになった事と思います。

また、作品を提供してくれた学生からも「大学のカリキュラムでは学べないことを学ぶことができた」との感想をいただき、今後もこのような交流を様々な形で持てれば、双方にとって非常に有意義であると考えます。



Talk show
Live



Ohjiro park

Festa Creare おわせひのきフェスタ・クレアーレ

Gallery Watari



Tree planting
and cutting
Workshop



開催期間 2005.9.11~25